

一般質問

(所属会派は3月定例会時点)

質問した事項 (登壇順)

議員氏名 (会派名)	質問した事項 (登壇順)
うのうら まさなり 鵜浦 昌也 (創生会)	1 脱炭素社会の実現に向けた取り組み 2 交流人口拡大 3 教育行政
おいかわ しゅういち 及川 修一	1 スポーツを通じてのまちづくり 2 財政状況 3 空き家対策
がもう さとる 蒲生 哲 (新志会)	1 ホテル建設に伴う観光産業の振興 2 津波防災対策 3 海洋環境の変化による水産業への影響
いせ じゅん 伊勢 純 (日本共産党)	1 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者を支援する事業復活支援金の活用推進 2 本市のスポーツ・レクリエーション活動の振興と今後の事業 3 漁業の現状とALPS処理水に関する資料
ふじくら たいじ 藤倉 泰治 (日本共産党)	1 市長の政治姿勢 2 陸前高田市公共施設等総合管理計画 3 本市の国民健康保険特別会計における財政の状況と国税の負担軽減
おおつぼ りょうこ 大坪 涼子 (日本共産党)	1 新型コロナウイルス感染症のオミクロン株感染抑止とワクチン接種体制 2 市内の医療・福祉等のエッセンシャルワーカーへの処遇改善 3 防災集団移転に伴う今後の課題
おおた かよこ 大和田加代子 (碧い風)	1 交流人口拡大および関係人口創出と地域ブランド化 2 陸前高田市公共施設等総合管理計画
ささき かずよし 佐々木一義 (創生会)	1 防災体制の構築 2 SDGs 未来都市 3 まちの活性化 4 ピーカンナッツ事業
いとう ゆういち 伊藤 勇一 (碧い風)	1 交流人口の拡大 2 市道の整備と維持管理 3 令和4年度当初予算
なかの たかのり 中野 貴徳 (翔 成)	1 GIGAスクール構想に基づく取り組み状況 2 日本遺産「みちのくGOLD浪漫」の整備活用状況
おおさか たかし 大坂 俊 (翔 成)	1 本市の財政状況と今後の財政運営 2 陸前高田市人口ビジョンおよび第2期まち・ひと・しごと総合戦略
きむら あきら 木村 聡 (翔 成)	1 子育て政策の現状と今後 2 地域運営組織による地域の課題解決の可能性 3 デジタル活用によるまちづくりの可能性
はたけやま えみこ 畠山恵美子 (翔 成)	1 SDGs 未来都市計画と脱炭素イノベーション 2 市立図書館の運営と評価および地方創生との関連性 3 確かな学力の育成とCBTシステムの活用

※スマートフォンなどで見出しの下にあるQRコードを読み取るとYouTubeで質問・答弁の様子が見れます。

市有地での発電事業は

点在し大規模活用できない



質問 脱炭素社会の実現に向け、市有地を活用した発電事業の現状と課題はどうか。

答弁 市内には、防災集団移転促進事業により取得した用地が多くあり、未利用地の解消に向け様々な取り組みを進めてきた。その一つが太陽

光発電施設の誘致であり、米崎町の約1000平方メートル、1区画で進めている。課題は、買い取った土地が点在し、大規模な発電施設として活用できないこと。また、送電線の容量が確保できないこと。

撮影ロケ地誘致は

質問 交流人口拡大策とし

給食費と成人式は

質問 最近の原油高により、小麦をはじめ食料品など



太陽光発電のパネル (米崎町)



鵜浦 昌也

(創生会)

市債残高の状況は

H21年度比で13億円減



質問 本市基金の効果的な運用の考え方はどうか。

答弁 東日本大震災復興基金は、サッカー場の照明や旧吉田

て、映画やテレビドラマ、CMなどの撮影ロケ地として誘致を図ってはどうか。

答弁 撮影地の誘致を本格的に進めるには、専門職員の配置や撮影に関わる演者、スタッフなどが長期滞在できる宿泊場所の確保など、様々な課題がある。現時点では積極的な誘致策を展開することは

の物価が上昇している。令和4年度の学校給食費をどのように考えているか。

質問 令和4年度から成年年齢が、これまでの20歳から18歳となる。成人式の参加対

象はどうするのか。

答弁 18歳の多くは高校3年生。進学や就職活動など重要な時期であり、新成人としての参加が難しくなることが見込まれる。4年度以降の成人式も、これまでと同様に対象年齢を20歳とする方向で考えている。

質問 市債残高の状況と償還の考え方はどうか。

答弁 市債は、令和3年度末で約133億円と、平成21年度末に比べ約13億円減少する。基礎的財政収支であるプライマリーバランスを意識し、機を捉えて繰り上げ償還などを検討する。

スポーツ合宿誘致は

質問 復旧した野球場やサッカー場を活用してのスポーツ合宿誘致策は。

答弁 首都圏の大学などを対象とした合宿誘致相談会に参加するなど、誘致活動をしている。交流人口拡大に向け、パラスポーツの合宿誘致にも

空き家対策は

質問 市内の空き家の状況と課題をどう捉えているか。

答弁 平成28年度の実態調査によると、市内の空き家は247件。管理されない空き家は防災、衛生、景観など周辺の生活環境に悪影響を及ぼす。



企業立地補助金を活用して誘致された企業 (気仙町)

所有者の意識向上や空き家の有効活用を図る必要がある。今後も「高田暮舎(くらしや)」と連携を図りながら空き家の活用説明会の開催や実態調査などを行い、正しい情報を伝え、空き家が貴重な資源として利用促進されるよう取り組みを進める。